

# 聖書は何と言っていますか

---

～エホバの証人の教えを聖書から検証する～



:目次:

|     |                 |
|-----|-----------------|
| P3  | Part1 聖書とは？     |
| P4  | Part2 神とは？      |
|     | 1、唯一の神          |
| P5  | 2、イエス・キリスト      |
| P10 | 3、聖霊            |
| P14 | 4、唯一の神の本質とは？    |
| P16 | Part3 救いとは？     |
|     | 1、救いをもたらす力      |
| P18 | 2、救われる(義とされる)条件 |
| P21 | 3、信仰と行い         |

この冊子はなるべく説明の文章を少なくし、聖書の言葉そのものを中心に構成されています。聖書を誤りのない神の言葉として受け入れる人ならば、躊躇なく理解できる内容となっています。

聖書とは何か、聖書そのものが宣言しています。

・ヨハネの黙示録22:18～19

(新共同訳)この書物の預言の言葉を聞くすべての者に、わたしは証しする。これに付け加える者があれば、神はこの書物に書いてある災いをその者に加えられる。また、この預言の書の言葉から何か取り去る者があれば、神は、この書物に書いてある命の木と聖なる都から、その者が受ける分を取り除かれる。

(新世界訳)わたしは、すべてこの巻き物の預言の言葉を聞く者に証しする。これらのことに付け加える者がいれば、神はこの巻き物に書かれている災厄をその者に加えるであろう。また、この預言の巻き物の言葉から何かを取り去る者がいれば、神は、命の木から、また聖なる都市の中から、すなわち、この巻き物に書かれているものから彼の分を取り去られるであろう。

聖書は権威ある神の言葉です。聖書には誤りがなく、神の霊によって書かれました。聖書に何か人の教えを付け加えたり、人にとって都合が悪いからといって何かを減らすことは許されません。聖書によればそれは恐ろしい罪であり、神に対する反逆そのものです。神が良いと言われるものを人も良いとし、神が悪いと言われるものは、人も悪いとしなければなりません。

1、唯一の神

・申命記6:4

(新共同訳) 聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

(新世界訳) イスラエルよ、聴きなさい。わたしたちの神エホバはただひとりのエホバである。

・コリントI 8:4

(新共同訳) 唯一の神以外にいかなる神もない。

(新世界訳) 神はただひとりのほかにはいない。

・I テモテ1:17

(新共同訳) 永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように。

(新世界訳) 人が見ることのできないとこしえの王、唯一の神に、誉れと栄光が限りなく永久にありますように。

神は唯一であり、すべての上に立たれる王の王、主の主です。すべてのものは神によって創造され、神によって保たれています。人は神の栄光のために創造されました。神は人を愛しておられ、神と愛し合うことが人の人生の目的なのです。

## 2、イエス・キリスト

(新世界訳聖書では、イエス・キリストに関する箇所を意図的に改ざんしていますので、その点を指摘しながら御言葉を上げていきます。下線部分が改ざん箇所です)

### ・ヨハネによる福音書1:1

(新共同訳) 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。

(新世界訳) 初めに言葉があり、言葉は神と共におり、言葉は神であった。

(新世界訳:英語) In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was a god.

(ギリシャ語)

|     |           |     |      |        |     |        |       |     |      |
|-----|-----------|-----|------|--------|-----|--------|-------|-----|------|
| Ἐν  | ἀρχῇ      | ἦν  | ὁ    | λόγος, | καὶ | ὁ      | λόγος | ἦν  | πρὸς |
| In  | beginning | was | the  | Word   | and | the    | Word  | was | with |
| τὸν | θεόν,     | καὶ | θεὸς | ἦν     | ὁ   | λόγος. |       |     |      |
| The | God       | and | God  | was    | the | Word   |       |     |      |

英語では、the God は絶対的な存在としての神を表しますが、a god とした場合、神々の中の一つの神、というような弱い意味になります。ここは言であるイエスが神そのものであることを宣言する箇所ですが、エホバの証人は、「イエス＝神」であるとしたくないため、Word was a god と訳しました。これは正しい訳ではありません。ギリシャ語で見てください。後ろから三つ目の単語、θεὸς に、the にあたる τὸν が付いていないため、この神は the God ではなく、a god と訳すべきだと考えることもできるでしょう。しかし、これはギリシャ語の文法を理解していない翻訳です。ギリシャ語においては、主語と述語の並びは語順ではなく、語尾の変化によって決定されます。ここでは、神を意味する θεόν が θεὸς に変化しているため、主語と述語が入れ替わります。そして、ギリシャ語の文法では、述語には冠詞が付かないのです。ですから、ここでは a god ではなく、the God と訳することができます。

## ・ヨハネによる福音書8:58～59

(新共同訳) イエスは言われた。「はっきり言っておく。アブラハムが生まれる前から、『わたしはある。』」すると、ユダヤ人たちは、石を取り上げ、イエスに投げつけようとした。

(新世界訳) イエスは彼らに言われた、「きわめて真実にあなた方に言いますが、アブラハムが存在する前からわたしはいるのです」そのため彼らは、イエスに投げつけようとして石を捨てた。

(新世界訳:英語) Jesus said to them: “Most truly I say to you, before Abraham came into existence, I have been.”

ユダヤ人たちが石を投げつけようとした理由は、次の箇所にあるとおりです。

## ・出エジプト3:14

(新共同訳) 神はモーセに、「わたしはある。わたしはあるという者だ」と言われ、また、「イスラエルの人々にこう言うがよい。『わたしはある』という方がわたしをあなたたちに遣わされたのだと。」

(新世界訳) すると神はモーセに言われた、「わたしは自分になるところのものとなる。そしてさらに言われた、「あなたはイスラエルの子らにこう言うように。『わたしはなる』という方がわたしをあなた方のもとに遣わされた』」。

ここでは「わたしはある」が、神の名として告げられています。ユダヤ人たちは、イエスが御自分を神と同一視する言葉を使われたことで怒ったのです。イエスは御自分が聖書に記されている神そのものであることを宣言されたのです。しかし新世界訳はギリシャ語で *ἐγὼ εἰμί* 英語にすれば I Am とされるべき言葉を、I have been (わたしはいる:ニュアンスとしては、いるという経験をしている) とし、ヘブライ語で אֲנִי 同様に I Am とされるべきところを、I will become (わたしはなる) としました。

その他のイエスが神であると語る箇所を見てみましょう。

### ・テトス2:13

(新共同訳) また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。

(新世界訳) そしてわたしたちは、幸福な希望と、偉大な神およびわたしたちの救い主キリスト・イエスの栄光ある顕現とを待っているのです。

### ・ヨハネ I 5:20

(新共同訳) 神の子が来て、真実な方を知る力を与えてくださいました。わたしたちは真実な方の内に、その御子イエス・キリストの内にいるのです。この方こそ、真実の神、永遠の命です。

(新世界訳) そしてわたしたちは、み子イエス・キリストによって、真実な方と結ばれています。この方こそまことの神であり、永遠の命です。

### ・ヘブライ1:8

(新共同訳) 御子に向かっては、こう言われました。「神よ、あなたの玉座は永遠に続き、また、公正の笏が御国の笏である」

(新世界訳) しかしみ子についてはこうです。「神は限りなく永久にあなたの王座、あなたの王国の笏は廉直の笏である」

### ・コロサイ1:15~17

(新共同訳) 御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。御子はすべ

てのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。

(新世界訳) 彼は見えない神の像であって、全創造物の初子です。なぜなら、他のすべてのものは、天においても地においても、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ政府であれ権威であれ、彼によって創造されたからです。他のすべてのものは彼を通して、また彼のために創造されているのです。また、彼は他のすべてのものより前からあり、他のすべてのものは彼によって存在するようになりました。

コロサイ1:15では、πρωτότοκος「最初に産まれた、長子」という言葉が使われています。造られたのではなく、産まれたのです。新世界訳では、ギリシャ語本文には存在しない「他の」という言葉を付け加え、まずイエスが創造され、その後で、他のものがイエスによって創造された、というようなニュアンスに変えています。

また、イザヤ書の預言はイエスが神であると明確に語っています。

### ・イザヤ9:6

(新共同訳) ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれました。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。権威が彼の肩にある。その名は、「驚くべき指導者、力ある神、永遠の父、平和の君」と唱えられる。

(新世界訳) わたしたちのためにひとりの子供が生まれ、わたしたちにひとりの男子が与えられたからである。君としての支配がその肩に置かれる。そして彼の名は、“くすしい助言者”，“力ある神”，“とこしえの父”，“平和の君”と呼ばれるであろう。

⇒その他にも……。

・イエスは、「わたしと父とは一つである」(ヨハネ10:30)、また神に向かって「あなた



がわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように」(ヨハネ17:21)と言われ、神とご自分が同一の存在であると表現されました。

- ・イエスは礼拝を受けることを拒まれませんでした。(マタイ14:33、マタイ28:9)
- ・イエスはトマスに「わたしの主、わたしの神よ」と呼びかけられても、否定しませんでした。(ヨハネ20:28、29)
- ・「神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、全能者がこう言われる。『わたしはアルファであり、オメガである』(黙示録1:8)とありますが、聖書を読めば、やがて来られる方はイエスです。ですから、イエスは神であり、主である方です。黙示録の続きでは、イエスが「恐れるな、わたしは最初の者にして最後の者」(黙示録1:17)と言っておられます。これは、1:8と同じ意味です。アルファはギリシャ語のアルファベットの最初、オメガは最後だからです。

以上の御言葉からわかるように、聖書はイエスを神の御子、そして神としています。また、人の子は人、犬の子は犬であるように、イエスは神の子ですから、神なのです。神の被造物ではなく、天使でもなく、神の独り子、つまり、神の神性を持つ存在なのです。しかし、エホバの証人では、イエスは被造物であり、神ではなく、大天使長ミカエルである、としています。それは、聖書から読み取れる事実ではありません。

### ⇒エホバの証人への問いかけ

- ・このように、イエスの神性を表す箇所がことごとく異なった翻訳とされているのはなぜだと思いますか。
- ・イエスが神と同一の存在ではなく、被造物であることを示す聖書箇所はどこですか。
- ・イエスは天使長ミカエルだと明確に宣言する箇所はどこですか。また、ヘブライの1章で、御子は天使ではないことを教えていますが、それについてどう思いますか。

### 3、聖霊

聖書は、聖霊は人格を持つ存在としてしています。

#### •エフェソ4:30

(新共同訳) 神の聖霊を悲しませてはいけません。

(新世界訳) また、神の聖霊を悲しませることのないようにしなさい。

#### •ローマ8:26

(新共同訳) 同様に、“霊”も弱いわたしたちを助けてくださいます。わたしたちはどう祈るべきかを知りませんが、“霊”自らが、言葉に表せないうめきをもって執り成してくださるからです。

(新世界訳) 同じように、霊もまたわたしたちの弱さのために助けに加わります。祈るべきときに何を祈り求めればよいのかをわたしたちは知りませんが、霊そのものがことばとならないうめきと共にわたしたちのために願い出してくれるからです。

聖書は、聖霊は神のような権威を持つ存在としています。

#### •マルコ3:29

(新共同訳) 聖霊を冒瀆する者は永遠に赦されず、永遠に罪の責めを負う。

(新世界訳) だれでも聖霊を冒とくする者には永久に許しがなく、その者は永遠の罪を負うのです。

#### •使徒5:9

(新共同訳) 二人で示し合わせて、主の霊を試すとは、何としたことか。

(新世界訳) あなた方二人が示し合わせてエホバの霊を試すとはどうしたことですか。

聖書には、聖霊が意志を持っており、神のような権威をもって人に命令する様子が書かれています。

### ・使徒13:2

(新共同訳) 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さない。わたしが前もって二人に決めておいた仕事にあたらせるために。

(新世界訳) 彼らがエホバに対する公の奉仕をし、また断食をしていると、聖霊がこう言った。「すべての人のうちバルナバとサウロをわたしのために、わたしが彼らを召して行なわせる業のために取り分けなさい」

### ・使徒16:6

(新共同訳) 彼らはアジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので…。

(新世界訳) アジア地区でみ言葉を語ることを聖霊によって禁じられたからである。

聖書は、聖霊は神のもとから来る方であり、真理を明らかにする方であるとしています。

### ・ヨハネ14:16～17

(新共同訳) 父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。この方は、真理の霊である。

(新世界訳) 父は別の助け手を与えて、それがあなた方のもとに永久にあるようにしてください。それは真理の霊であり、世はそれを受けることができません。

### ・ヨハネ16:13

(新共同訳) しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真

理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。

(新世界訳)しかし、その者、すなわち真理の霊が到来するとき、あなた方を真理の全体へと案内するでしょう。彼は自分の衝動で話すのではなく、すべて自分が聞く事柄を話し、来たらんとする事柄をあなた方に告げ知らせるからです。

この箇所は、エホバの証人のウェブサイトには寄れば比喩表現であると書かれています。しかし、それは無理な解釈です。イエスの話の流れからしても、たとえ話としてとらえるより、そのままの意味として読むほうがより確かな読み方です。

聖書によれば、聖霊は神と同じ名で呼ばれています。

## IIコリント3:17

(新共同訳)ここでいう主とは、“霊”のことですが、主の霊のおられるところに自由があります。

(新世界訳)エホバは霊です。そしてエホバの霊のある所には自由があります。

## ・マタイ28:19

(新共同訳)だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け…。

(新世界訳)それゆえ、行って、すべての国の人々を弟子とし、父と子と聖霊との名において彼らにバプテスマを施し…。

バプテスマは神の名によってなされます。聖霊がバプテスマの際に名を挙げられているとすれば、聖霊はまさに神であることになります。しかし、エホバの証人では、聖霊は人格を持つ神の立場にある存在ではなく、エネルギーのような、活動的な力で

あるとしています。しかし、聖書全体を見る時に(新世界訳聖書でも十分に)聖霊はただの力ではなく、人格を持った神であると理解できます。

### ⇒エホバの証人への問いかけ

- ・聖書が明確に示しているにも関わらず、エホバの証人では聖霊を神と認めず、活動的な力と主張するのはなぜでしょう。しかも、キリスト教会が過去に確立してきた、聖書に基づいた聖霊に関する教えにことごとく反発するのはなぜでしょう。それはほんとうに聖書に基づいた反発でしょうか。
- ・聖霊が人格をもった神ではない事を明確に示す聖書箇所をあげてください。

#### 4、唯一の神の本質とは？

神は唯一です。しかし、聖書によればイエスも神であり、聖霊も神です。イエスが「父」と呼ばれた神と、イエスと、聖霊は別々の神なのでしょう。いえ、神は唯一なのですから、それはありえません。ですから、聖書が神、主と呼ぶお方は、父である神、子なるイエス、聖霊と、三つでありながらも、それでも唯一である神、ということになります。聖書が食い違っているはずはないからです。

キリスト教の教理では、これを三位一体と呼びますが、三位一体という言葉は、聖書には登場しないのでその言葉は大して重要ではありません。重要なのは、聖書が語る唯一の神は確かに三つでありながら一つであるという事実です。三位一体は、その神の姿をわかりやすく表現するために作られた言葉であると言えるでしょう。他にも三つでありながら一つである神の姿を語る聖書の箇所を挙げてみましょう。

##### ・創世記1:1

(新共同訳) 初めに、神は天地を創造された。

(新世界訳) 初めに神は天と地を創造された。

ここでの「神」はヘブライ語では **אֱלֹהִים** (エロヒーム) です。ヘブライ語では、単数形、二つのものであることを表す両数形、三つ以上のものであることを表す複数形があり、エロヒームは複数形なのです。

##### ・創世記1:26

(新共同訳) 神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」

(新世界訳) 次いで神は言われた、「わたしたちの像に、わたしたちと似た様に人を造り…。

人は「神(エロヒーム)に似せて」作られています(創世記5:1)。神は唯一であられま  
すから、ここでの「我々」は「神+天使」などではなく、「唯一の神、しかし複数」(変な  
表現ですが)であることがわかります。

⇒その他にも……。

- ・申命記6:4「主は唯一の主」の唯一は、ヘブライ語で  $\text{יְהוָה}$  (エハド) で、これは 団結という意味も含む言葉です。
- ・マタイ28:19「父と子と聖霊の名によって」の「名」はギリシャ語で  $\text{ὄνομα}$  という言葉で、これは単数形となっています。つまり、父、子、聖霊は、一つの名で呼ばれているのです。(英語では names ではなく name )

唯一でありながら三つであり、三つでありながら唯一である神。これは、人間の知恵では理解できない神の姿です。でも、それがかまわないでしょう。なぜなら、神は人間の知恵をはるかに超えたお方だからです。繰り返しになりますが、重要なのは三位一体という言葉ではなく、神は唯一である、イエスも聖霊も神である、というまるで矛盾しているような事実なのです。

## 1、救いをもたらす力

イエスが人の罪を赦す救い主である理由は、イエスが神でありながら完全な人となられたからです。

## ・ヘブライ7:24～28

(新共同訳) イエスは永遠に生きているので、変わることはない祭司職を持っておられるのです。それでまた、この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、御自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことができになります。このように聖であり、罪なく、汚れなく、罪人から離され、もろもろの天よりも高くされている大祭司こそ、わたしたちにとって必要な方なのです。この方は、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のため、次に民の罪のために毎日いけにえを献げる必要はありません。というのは、このいけにえはただ一度、御自身を献げることによって、成し遂げられたからです。律法は弱さを持った人間を大祭司に任命しますが、律法の後になされた誓いの御言葉は、永遠に完全な者とされておられる御子を大祭司としたのです。

(新世界訳) 彼は永久に生き続けるので、後継者を持たずに自分の祭司職を保ちます。それゆえ、彼は自分を通して神に近づく者たちを完全に救うこともできます。常に生きておられて彼らのために願い出てくださいるからです。このような大祭司、忠節で、偽りも汚れもなく、罪人から分けられ、もろもろの天よりも高くなられた方こそわたしたちの必要にかなっていたのです。この方は、あの大祭司たちがするように、まず自分自身の罪の



ために、次いで民の罪のために、日ごとに犠牲をささげる必要はありません。(ご自身をささげた時、そのことをただ一度かぎり行なわれたからです。) 律法は弱さを持つ人たちを大祭司として任命しますが、律法の後に来た、明言された誓いの言葉は、永久に完全にされたみ子を任命するのです。

イエスが被造物であり、天使であるならば、人を完全に救うことはできません。天使は罪を犯す可能性のある、不完全な存在だからです。(Ⅱペトロ2:4 ユダ1:6) けがれない、完全な存在である神の御子が、罪のない完全な人となりました。そのイエスの血こそ、すべての罪を清める力を持つのです。

#### ・Iコリント15:22

(新共同訳)つまり、アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。

(新世界訳)アダムにあってすべての人が死んでゆくのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。

#### ・ヘブライ9:12

(新共同訳)雄山羊と若い雄牛の血によらないで、御自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられたのです。

(新世界訳)やぎや若い雄牛の血ではなく、ご自身の血を携え、ただ一度かぎり聖なる場所に入り、わたしたちのために永遠の救出を得てくださったのです。

## 2、救われる(義とされる)条件

聖書で救いを意味する二つの言葉を見てみましょう。「義とされる」そして「救われる」です。

### ・ローマ3:22～24

(新共同訳) すなわち、イエス・キリストを信じることにより、信じる者すべてに与えられる神の義です。そこには何の差別もありません。人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。

(新世界訳) イエス・キリストに対する信仰による神の義であり、信仰を持つすべての者のためのものです。差別はないからです。というのは、すべての者は罪をおかしたので神の栄光に達しないからであり、彼らがキリスト・イエスの払った贖いによる釈放を通し、神の過分のご親切によって義と宣せられるのは、無償の賜物としてなのです。

### ・ローマ4:5

(新共同訳) しかし、不信心な者を義とされる方を信じる人は、働きがなくても、その信仰が義と認められます。

(新世界訳) 他方、業を行なわなくても、不敬虔な者を義と宣する方に信仰を置く人に対しては、その人の信仰が義とみなされるのです。

### ・ガラテヤ2:16

(新共同訳) けれども、人は律法の実行ではなく、ただイエス・キリストへの信仰によって義とされると知って、わたしたちもキリスト・イエスを信じました。これは、律法の実行ではなく、キリストへの信仰によって義とさせていただくためでした。なぜなら、律法の実行によっては、だれ一人として義とされな

いからです。

(新世界訳) 人が義と宣せられるのは律法の業によるのではなく、ただキリスト・イエスに対する信仰を通してであることを知っているのので、このわたしたちでさえキリスト・イエスに信仰を置き、こうして、律法の業によってではなく、キリストに対する信仰によって義と宣していただけるようにしたのです。律法の業によっては、肉なる者はだれも義と宣せられないからです。

#### ・エフェソ2:8～9

(新共同訳) 事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。

(新世界訳) まさにこの過分のご親切のもとに、あなた方は信仰によって救われているのです。そして、これはあなた方によるのではなく、神の賜物なのです。そうです、それは業によるものではありません。だれも誇ることのないためです。

#### ・テトス3:5

(新共同訳) 神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、御自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。

(新世界訳) 神は、わたしたちが義の業を行なったからではなく、ただご自分の憐れみのもとに、わたしたちを命に導いた洗いと、聖霊によってわたしたちを新たにすることによって、わたしたちを救ってくださいました。

#### ・Ⅱテモテ1:9

(新共同訳) 神がわたしたちを救い、聖なる招きによって呼び出してくださったのは、わたしたちの行いによるのではなく、御自身の計画と恵みによるのです。

(新世界訳)神はわたしたちを救い、聖なる召しをもって召してくださいましたが、それはわたしたちの業によるのではなく、ご自身の目的と過分のご親切とによるのです。

救われるための条件を上記の御言葉からまとめると、次のようになります。

- ①神の恵み、憐れみによって、選ばれ、招かれ、呼ばれました。
- ②その神のくださった恵み、イエスを信じることによって義とされ、救われます。人の業や行いは必要ありません。

### 3、信仰と行い

では次に人の行いに関する御言葉を見てみましょう。

#### ・ヤコブ2:17

(新共同訳) 行いが伴わないなら、信仰はそれだけでは死んだものです。

(新世界訳) このように信仰も、業が伴っていないなら、それだけでは死んでいるのです。

#### ・テトス1:16

(新共同訳) こういう者たちは、神を知っていると公言しながら、行いではそれを否定しているのです。嫌悪すべき人間で、反抗的で、一切の善い業については失格者です。

(新世界訳) 彼らは神を知っていると公言しますが、その業では[神]を否認しています。彼らは忌むべき者、不従順な者であり、どんな良い業に対しても是認を受けていないのです。

ここでは、行いは信仰の結果であるとしています。信仰があるなら、行いを伴うのです。しかし、行いは救いの条件とされているわけではありません。それを踏まえて、次の御言葉を考える必要があります。

#### ・ヤコブ2:21～24

(新共同訳) 神がわたしたちの父アブラハムを義とされたのは、息子のイサクを祭壇の上に献げるという行いによってではなかったですか。アブラハムの信仰がその行いと共に働き、信仰が行いによって完成されたことが、これで分かるでしょう。……これであなたがたも分かるように、人は行いによって義とされるのであって、信仰だけによるものではありません。

(新世界訳)わたしたちの父アブラハムは、自分の息子イサクを祭壇の上にささげた後に業によって義と宣せられたのではありませんでしたか。あなた方は、[彼の]信仰がその業と共に働き、[彼の]業によって[その]信仰が完全にされたのを見えています。……これで分かるように、人は業によって義と宣せられるのであって、ただ信仰だけによって[義と宣せられ]るのではありません。

信仰は行いによって証明されます。行いの伴う本物の信仰が人を義とする、というのがこの強調点です。しかし、この御言葉が「義とされるために行いは必要ない」という、その他の御言葉を否定するということではありません。鍵となるのは「信仰が行いによって完成される」という言葉でしょう。

以上の御言葉から、信仰と行いについてまとめると、次のようになるでしょう。

人が救われるためには、行いは必要ではなく、信仰のみが必要です。  
その信仰が本物であるならば、必ず行いが伴います。

### ⇒エホバの証人への問いかけ

- ・良い行いに励み、努力し、伝道しておられるのは素晴らしいことです。では、その理由はなんでしょうか。義とされるためですか。それとも義とされたからですか。
- ・今している良い行いをやめた場合、あなたはどうなりますか。良い行いをしなくてもただイエスへの信仰によって神があなたを義とし、救ってくださることを信じることができますか。

「聖書は何と言っていますか～エホバの証人の教えを聖書から検証する」

製作: 下諏訪キリスト教会

連絡先: 〒393—0074 長野県諏訪郡下諏訪町緑町328

TEL&FAX 0266—27—3862

shimosuwa\_church@ybb.ne.jp

<http://shimosuwachurch.net/>